

あきる野を担う子どもたち

東秋留小学校



校長 宮崎 慶一
副校長 坂本 満弘

教育目標

豊かな学び すこやかな体 ひろい心

経営方針

学校・学級・友だち大好き！
子ども達にたくさんの『いい体験』を！
①健康で楽しく生きがいのある学校
②よくわかる楽しい授業の推進
③学校と家庭・地域社会が心と手をむすんだ教育

創立133年目を迎えた歴史と伝統のある東秋留小学校は、11000名を越す卒業生を世に送り出し、地域の教育センター的な役割を果たしてきました。

本校は人権教育を基盤に据え、人とかかわりを重点に特色ある教育活動を進めています。①思いやりの心を育てる。(いじめ・不登校ゼロを目指して障害のあるなしにかかわらず、友だちとかかわりを大切に日常的な交流をしています。)②郷土を愛する心を育てる。(地域の豊かな自然や文化を生かした教育を進めています。)③たくましく生きる力を育てる。(学校教育の他にも保護者・地域の方々の支援も受けて進めています。)

多西小学校



校長 堀部 朋良
副校長 渡部 雅彦

教育目標

心豊かでおもいやりのある子
ねばり強くやりぬく子(平成18年度重点目標)
明るく元気な子

平成18年度経営方針

創意に満ちた学校運営の推進
方策1：叡智を結集して教育目標を具現化する。
方策2：継続は力なりをモットーとする指導をする。
方策3：互いに授業力を高める教師集団を形成する。
方策4：うるおいと落ち着きのある教育環境の実現を目指す。

開校133年の多西小学校は、歴史ある郷土と豊かな自然に抱かれ、地域や保護者の方々のご支援をいただきながら、「一人一人が生き生きと学び合う、明るい学校」を目指します。

本年度、多西小学校は、学校経営方針を具現化する校内研究プロジェクトを発足し、教職員全員でOJTによる指導法改善、授業力向上を図ります。また引き続き、「ねばり強くやりぬく子」を重点目標として掲げ、その実現のために、算数科少人数(T・T)指導に2名を配置し授業改善を推進し、さらに4名の教員補助員を算数・国語で活用して基礎基本の徹底を目指します。さらに、特別支援補助員・図書館補助員等を活用して個別支援の向上を図るとともに、生徒指導推進協力員を配置して効果的な生活指導を推進します。

南秋留小学校



校長 岩井 克昭
副校長 浅原 伸行

基礎・基本を重視し、確かな学力を図る授業の展開

どの子も生き生きと安心して学校生活を送ることができる学年・学級づくり

児童の生命を守り、健康で安全な学校

地域と一体となった学校を目指し、開かれた学校づくりの推進

「美しい景色とピオトープ 子どもいきいき南秋留小学校」これは、現在学校が使っている封筒のキャッチコピーです。学校南側に広がる加住丘陵と秋川。体育館脇には開校30周年で寄贈されたピオトープが水をたたえています。

本校は、美しい豊かな自然環境に恵まれた学校です。今年度は、市内でも一番の児童数で、約700名の子どもたちが在籍しています。子どもたちは、その中で元気に学び、生き生きと学習しています。平成17年度よりあきる野市の研究推進校の指定を受け、秋多中学校との連携を踏まえながら研究を推進しています。平成18年度は、連携の視点として、算数科・数学科での授業の改善・充実を目指しながら、その成果を発表することになっています。

草花小学校



校長 高橋 志夫
副校長 山田 順子

教育目標

●海のように大きな心
●太陽のように輝く自分
●大地のようにたくましく活動

経営方針

子どもの生きる力の育成
●未来に向かって最高の6年間を生み出す
●教員の自律性と同僚性を高める
基礎学力の充実と定着を図る
支援と指導のバランスのとれた教育活動

開校32年を迎えた草花小学校は、保護者や地域の方々と連携し、開かれた学校を目指します。一人一人の子どもたちに『将来に生きて働く力と最高の6年間の創造』が目標です。

今年度、以下の3つが、草花小学校の特色です。
1つ目は、昨年度、地域、PTAそして学校が連携をした会を立ち上げました。この会では、児童の安全と安心を守ることを中心に定期的に話し合いを持つことにしました。地域、PTA、学校は、この会の趣旨をもとにそれぞれができることに取り組みます。
2つ目は、子どもに基礎的・基本的な学力の定着を目指し、算数を取り上げ、全教職員で日々の授業の改善を中心に研究を進めます。
3つ目は、昨年度から取り組んでいる、児童が自主的に行ってきたあいさつボランティアの活動の更なる充実です。

増戸小学校



校長 宮澤 正夫
副校長 久朗津朋子

めざす学校像

『互いの良さを認め合い、共に育てる、信頼される学校』

- 児童一人ひとりの良さが認められ、発揮できる学校
- 教職員が協力し合い、意欲的に教育実践に励む学校
- 保護者や地域社会にとって、信頼と安心のもてる学校

正門横にそびえる大木『香椿木』(ちゃんちんぼく)のように、大きく伸びよう！個性を生かそう！強く根をはろう！をめあてに、子どもの良さや可能性を伸ばし、地域に根ざした教育の推進に努めています。

校庭の「香椿木」は、春の芽吹きが若葉が濃い紅色で、したいに淡い紅色になり、やがて、若葉色から緑に変わる個性のある樹木です。昭和30年代に「増戸小の子ども達も個性豊かな子どもになるように」の願いが込められて植えられました。本校の良さ伝統を継承しつつ、特色ある学校づくりに向けて

- 2学期制の推進のもとに、確かな学力の育成をめざします。
- 通級指導学級を開設して、特別支援教育の充実をめざします。
- 増戸中学校との連携促進と、横沢入り里山の活用を図っていきます。

五日市小学校



校長 榎本 茂
副校長 千代谷和紀

「知」：基礎的・基本的な内容をしっかり教えます。

「徳」：道徳で学んだことを、日常生活で実践できるように指導します。

「体」：体育の時間の充実と日常的な体力作り活動を盛んにします。

「芸」：歌唱・朗読・絵画等の日常の活動を盛んにします。

「勤」：勤労奉仕活動を盛んにし、働く喜びを感じることができるようにします。

本校では全教職員の英知を集結して『知・徳・体・芸・勤』のバランスのとれた児童の育成を全力で目指します。

開校明治6年。校長室には初代からの校長先生の写真がずらりと並び、五日市小学校の発展を静かに見守っています。また、校庭には由緒ある木々が茂り、校庭に響き渡る鼓笛隊の演奏は、48年の輝かしい歴史を表しています。輝く伝統に支えられ、地域に愛される落ち着いた学校です。

未来に羽ばたく子どもたちを育てます

秋多中学校



校長 丹治 充
副校長 神林 真

- 教育目標**
- いのちの尊さを深く自覚し、たくましく生き、すすんで社会の発展につくす人をめざして
 - ゆたかな心をもとう
 - たくましい体をつくろう
 - しなやかな個性を磨こう
- 教育の重点**
- 自ら学び、自分の考えを高める生徒
 - 思いやりを持ち、他者との関わりを深める生徒
 - 基本的な生活習慣を身につけた生徒
- 経営の重点**
- 確かな学力をつける学習支援
 - 人権尊重精神と規範意識の涵養
 - 豊かな心を育てる教育
 - 保護者・地域との連携

「生徒と教師が共に燃え感動できる学校」を目標に、学習・行事・部活動に、保護者・地域と一緒に取り組んでいます。全活動を通し「いのち尊ぶ教育」を推進しています。

17年度都選手権大会で優勝した剣道部、17年度A組でも金賞を受賞した吹奏楽部、運動部も文化部も活発に活動しています。また、「学力の確実な定着を図り個性を伸ばす秋多中学校」を目指す学校像として、日々の学習活動に取り組んでいます。平成16・17年度の都授業改善研究推進校としての経験を生かし、一層の授業改善を目指します。国語・数学・英語で少人数指導を実施すると共に、長期休業中など補充教室を行っています。

西中学校



校長 新井 俊敏
副校長 清水 和彦

- 「本気」「元気」「根気」、思いやりと規律と活力のある学校を目指す。
- コスモス街道の整備やあきるの学園との交流を通した思いやり教育の実践
- 学力の基礎・基本、生活の基礎・基本、心の基礎・基本の充実

市のほぼ中央に位置し、周囲を、都立あきる野学園、多摩養育センター、旧都立高校、富士通そして野菜やクリの畑に囲まれた、創立28周年を迎えた学校です。

すばらしい教育環境の中で、生徒は知・徳・体をバランスよく学んでいる学校です。学習では各教科はもちろん朝読書・選択を真剣に取り組んでいます。心の育成面では、行事や総合的な学習の時間を中心に、コスモス街道の整備や障害のある人との交流・体験を通して「思いやりの心」をしっかり学んでいます。健康・体力の面では、多くの部活動が東京都のトップレベルにあり、体育大会や行事に燃え、生徒は主体的に活動しています。

増戸中学校



校長 熊井 重彰
副校長 岩下 伴雄

- 学力の定着・向上（「授業改善プラン」を柱とした授業改善、校内研修の充実、増戸小学校との連携）
- 生活指導の改善（規範意識の確立、教育相談機能の充実、生徒会活動の活性化等）
- 「開かれた学校」、「危機管理に強い学校」づくりの推進
- 保護者や市民から信頼される教職員適切な事務運営と、快適で安全な教育環境の確立

本校は、生徒の理想像として、「夢を持ち続ける人」・「進んで努力する人」・「思いやりのある人」を掲げ、保護者や地域との連携のもと、教職員が一丸となって学校教育を推進しています。

一小一中の学区であり、生徒は幼い時から慣れ親しみ純粋で家族的な雰囲気のある学校です。また、来校者や地域から「挨拶がとても良くできる。」と褒められています。7月には、昨年に引き続き、行政や保護者・地域の支援をいただく中で、全校で2日間の「保育体験学習」、「福祉体験学習」、「職場体験学習」を実施します。体験を通して社会性をはぐくみ、自己の生き方を見つめる機会にしてほしいと考えています。

東中学校



校長 田代 和正
副校長 河智 健三

- 平成18年度スローガン「知性・感性・社会性」を育てる開かれた東中学校教育方針
- 1 豊かな「知性」を育てる教育の推進
生徒が自らの生き方において、自信を持って主体的に判断し、行動できるように、個性の伸張と充実感・達成感を持てる教育を推進する。
 - 2 豊かな「感性」を育てる教育の推進
生徒の健全育成の推進を図り、心の健康を増進し、節度と調和のある生活ができるように指導を充実させる。そのために道徳教育を充実させる。
 - 3 豊かな「社会性」を育てる教育の推進
人間尊重の教育を推進するとともに、社会貢献の精神を育み、他者とも安心して豊かな生活が送れるように、教育活動を充実させる。
 - 4 開かれた学校づくりの推進
社会の変化に対応し、時代の要請に即した教育を進め、地域の教育力を活用して生徒に次代を担うために必要となる資質を身につける。
 - 5 特別支援教育の推進
心身障害学級との交流を通して、心身に障害のある人との相互理解を深める。また、一人一人の健全な育成と発達を図れる学校体制を創造する。

東中学校は、「学ばせる教育」「引き出す教育」「感じ取らせる教育」を基本に、一日の授業を大切に、一人一人の生徒を認め、心のこもった教育環境を整えていきます。

東中は、剣道部の関東大会出場を始め、吹奏楽部の東京都コンクール金賞連続受賞など好成績を上げています。また、昔から学力の東中学校と評判が高く、文武両道の学校です。誇りの持てる東中学校として教育活動を展開していきます。

御堂中学校



校長 石澤 輝安
副校長 渡辺 暁

- 【教育目標】**
- 一、自ら学び自ら考え実行する生徒
 - 一、理想に向かって向上努力する生徒
 - 一、美しい心たくましい体の生徒
- を実現するためにつぎのことを重点目標に取り組めます。
- (1)学習意欲が向上するよう指導する。
 - (2)教職員の指導技術向上のため、校内研修を充実させる。
 - (3)特色ある教育活動の推進

- (1)少人数授業を通して生徒一人ひとりの習熟の程度や興味・関心等に応じたきめ細かな学習指導を行い基礎的学力の定着と向上を図るよう指導します。
- (2)教育相談部を中心にスクールカウンセラーと協力して教育相談活動を行い、心のケア及び不登校生徒への指導を充実させています。
- (3)総合的な学習の時間で自ら課題をみつけ学習する活動を通して、情報を読み取る力、まとめる力、考える力、発表する力等を育成し、多面的なものの見方・考え方を身につけられるよう指導します。

草花丘陵を背に、南に流れる平井川の沖積地の水田を埋め立てて昭和58年に開校され本年度で24年目を迎えます。雑木林を北に背負い、南に点在する水田と平井川の流に囲まれ、西に遠く奥多摩の山々を望む自然環境に恵まれた地域です。保護者、地域の方々には中学校に大きな期待を寄せ、良い学校づくりをしようという気持ちが強く協力的です。

- 生徒は、明るく素直でとても落ち着いた態度で授業や部活動に熱心に取り組んでいます。とりわけ、生徒会では「あいさつは御堂の顔」をスローガンにして取り組んでいます。生徒があいさつする明るい声が響いています。
- (1)総合的な学習の時間の学習活動を通して、新聞を活用して情報処理能力を育成するよう指導しています。
 - (2)3年生では、上級学校訪問を通して自分の生き方について考えを深められるよう指導しています。

五日市中学校



校長 加藤 高明
副校長 曾我 有二

- 教育目標**
- よく考えて行動する生徒（自律）
 - 進んで協力する生徒（協働）
 - 思いやりのある生徒（共生）
 - 心身ともに健康な生徒（健康・安全）
- 経営目標**
- 心の教育の充実
 - 確かな学力の育成
 - 健康・安全教育の推進
 - 開かれた学校づくりの推進

本校は、長い歴史と伝統を持ち、地域住民と保護者の期待に応えて育てられてきました。現在もこの伝統を生かし、学校・地域・保護者が三位一体となり教育活動を進めているのが特色です。

本校は伝統と歴史と豊かな自然環境に恵まれ、生徒は、充実した中学校生活を日々送っています。勉強（少人数授業等）や部活動、心身障害学級との交流、ガドレール清掃や様々なボランティア活動、活発な学校行事（運動会や音楽会）お祭りへの参加（中学生御興 本年度新調）等が学校と地域、保護者の協力のもとに行われ、より高い教育効果を上げています。

特別支援教育推進情報 - その6 -

特別支援教育体制・副籍モデル事業（3年次）

すべての子どもが楽しく生き生きと学校生活を送るために

モデル地域としての最終年度

東京都の特別支援教育推進モデル地域として3年目を迎えました。

平成17年度に市内小中学校が、通常の学級の中で何らかの特別な支援が必要であると考へ、巡回相談（教育相談所の心理職）の対象とした児童・生徒は約230人（全児童・生徒の約3%）でした。LD（学習障害）やADHD（注意欠陥・多動）、高機能自閉症等の診断を受けているか、あるいはその傾向が見られ、学級での一斉指導や集団活動に困難さが見られる児童・生徒について、学校、家庭、教育委員会等が連携して一人一人に適した教育環境づくりを進めています。

モデル地域としての最終年度は、この2年間で築いてきた特別支援教育体制を検証しながら、各取組の質を高め、すべての子どもが生き生きと楽しい学校生活を送ることができる環境整備を目指します。

子どものサインを見逃さない環境作り

支援のスタートは、子どもが出している様々なサインに対する大人の気付きです。特別な支援が必要な子どもの状態やその対応について、家族や幼稚園・保育園・学校の教職員、地域の方などの理解を一層深める取組

を進めます。具体的には、特別支援教育のリーフレットの配布や、広報誌への関係記事の掲載、幼稚園・保育園・学校の教職員対象の研修会の実施等です。

就学支援シートを活用した支援体制づくり

平成18年度の就学児で、園等での子どもや支援の様子を小学校に引き継ぐ「就学支援シート」の作成を希望されたのは27家庭でした。幼稚園や保育園等が丁寧作成したシートを、市内小学校やあきる野市園養護学校に引き継ぎました。

小学校等では、校内委員会を中心に入学期の指導・支援の在り方について検討し、よりきめの細かい支援体制作りを努めました。「就学支援シート」をもとに学校と保護者の相談も進めやすくなりました。今後は巡回相談員の助言等も加えながら、個別指導計画作りを進めます。

校内委員会の活性化

平成17年度、各校の校内委員会実施の平均回数は10回でした。月例化している学校や、巡回相談員の訪問日に合わせて事前・当日・事後に実施する学校、長期休業日を中心に実施する学校等、各校で工夫しています。コーディネーターのリーダーシップのもと、個別指導計画の検討を中心に一層の活性化

を図ります。

巡回相談による専門的な助言の活用

専門的な助言を受ける機会を、学校が一層有効に活用できるように、各校年5回の訪問を目安に巡回相談を進めます。また、2ヶ月に1回程度専門委員会を実施し、個別の指導・支援の内容を深め、巡回相談を通じて学校への助言をより充実したものにしていきます。

副籍事業の推進

平成17年度は23人の児童・生徒が「副籍交流」を進め、地域の一人としてのつながりの維持・強化を図りました。保護者の意向を大切にしながら、地域指定校と養護学校等、教育委員会が連携し、「地域であいさつを交わせる関係作り」を一層広げ、強いものにしていきます。



国会議員の加藤勝信氏が副籍交流の様子を視察（南秋留小学校）

教育委員会の活動（会議）

第一回臨時会

（議案）あきる野市立学校の校長及び副校長の人事について

（報告）臨時代理したあきる野市立学校職員出勤簿整理規程の一部改正に関する報告及び承認について

二月定例会

（議案）平成十八年度あきる野市教育委員会所管予算について

（議案）あきる野市学校給食センター運営協議会委員の委嘱について

（議案）あきる野市体育施設の設定及び管理に関する条例の一部を改正する条例

（議案）行政（教育）財産の取得に関する市長への申し出について 外2件

三月定例会

（議案）あきる野市文化財保護審議会委員の委嘱について

（議案）あきる野市教育委員会事務局処務規則の一部を改正する規則

四月定例会

（議案）あきる野市社会教育委員の委嘱について

（報告）臨時代理した教育委員会の職員の人事異動に関する報告及び承認について

（議題）食育について考える

家庭は教育の原点です⑥

家庭の役割を見直してみましょ。う。

「食事」と「睡眠」で 規則正しい生活リズムを つくろう！

何でしょうか。

このコーナーでは、教育の原点である家庭の役割について考えたり、紙面で意見交流をしたりするためシリーズで掲載しています。今回は、「食事」と「睡眠」で規則正しい生活リズムをつくらう！です。ぜひ、実践してみてください。

人間の体は、昼間には活発に活動しようとする神経が働き、夜には静かに休養しようとする神経が働く仕組みになっています。子どもたちが昼間、元気いっぱい遊び、生き生きと学ぶためには、「食事」と「睡眠」を中心とした規則正しい生活リズムはとても大切です。

「食事」と「睡眠」を中心とした規則正しい生活習慣が身に付けば、情緒が安定し、気力が充実します。その結果、思いやりの心や集中する力、我慢する力が育ちます。

「生活習慣を付けるのはもう手遅れでは」と諦めないでください。気付いた時が好機です。

では、その規則正しい生活リズムをつくるために家庭がすべきことは

- 朝は、6時〜7時には起きましよう。脳がすっきりと目覚めた状態で、登園・登校できるようにしましよう。
- 朝食をしっかりと取りましよう。脳の働きが高まるとともに、気持ちを落ち着かせましよう。
- 夕飯はできるだけ家族で一緒にとりましよう。一日の出来事を話題に、だんらんを楽しみましよう。子どもの健康状態なども分かります。
- 小学生のうちは、夜、8時〜9時ごろには寝るよう心がけましよう。夜更かしや睡眠不足は、身体や心の働きを低下させましよう。
- テレビやテレビゲームをする時間をきちんと決めましよう。
- 親の都合での、夜遅くの外出はなるべく止めましよう。子どもは興奮し、神経が休まりません。

以上のようなことを心がけ、家族みんなで規則正しい生活リズムを身に付けましよう。

あきる野市

国際化推進青年の会 善行表彰受賞決定

国際的視野を持った青少年の育成と、民間レベルでの国際交流活動の推進役を担っているあきる野市国際化推進青年の会が社団法人日本善行会の春季善行表彰を受賞することになりました。

これは、国際姉妹都市マールボロウ市との文化交流、教育交流等の活動が認められたもので、来る5月20日(土)明治神宮参集殿において表彰されます。



マールボロウ市の訪問団との交流活動

瀬戸岡古墳群が都指定史跡に種別変更されました

これまで「旧跡」であった瀬戸岡古墳群(大正15年都文化財指定)が、平成18年3月16日、「史跡」に種別変更されました。

瀬戸岡古墳群は、平井川を見

下るす台地上に古墳時代終末期に築かれた墳墓が数多く分布する遺跡で、これまでに横穴式の石室50基が確認されています。また石室の中からは直刀やガラス玉、火葬した骨を納めた須恵器なども発見されています。

この種別変更は、遺構が良好な状態で保存されている3箇所(瀬戸岡398番1外)を範囲指定し、史跡として保護の充実に図るため行われたものです。また、同日付で都指定史跡「広徳寺境域」の一部地番の変更が行われています。



瀬戸岡古墳群7号墳

生涯学習支援者バンクに登録しませんか

教育委員会では、市民の生涯にわたる学習活動、児童・生徒の学校外活動を支援するため、生涯学習支援者バンク事業を実施しています。

みなさんの持つ知識・技能を生涯学習活動に活かしてみませんか。随時、登録を受け付けています。

問合せ 社会教育課

☎ 558・2438